

令和5年度第1回中部森林管理局保護林管理委員会資料



「浅間山生物群集保護林」遠景

令和5年10月24～25日

令和5年度第1回保護林管理委員会資料

現地検討箇所①（浅間山生物群集保護林）

保護林の概要 ※保護林管理方針書より抜粋

名 称	浅間山生物群集保護林
位 置	高峰国有林 2166 いイロ林小班 浅間山国有林 2053 い、2054 い、2055 ほへとちイ、2064 い、 2167 いはイロハ、2168 イ林小班 長倉山国有林 2090 イロ、2091 いイロ、2169 イロ林小班
面 積	1,919.79 ha
設定目的	天明3年(1783年)の浅間山噴火により火山噴火物が堆積し、約50年を経過した頃から侵入したと推測されるカラマツ、アカマツ、ウラジロモミ、ダケカンバ等と、林内に自生するレンゲツツジ、スズラン、ヤナギラン等の高山植物群落があり、これらの生物群集を有する森林の保護・管理を図ることを目的とする。
地況・林況	標 高：1,400m～2,493m  気 候：中央高地気候区に属し、典型的な内陸性高冷地帯で、夏季は気温の較差が大きく冬季は寒さが厳しい。  降水量：御代田町の観測地で年平均約950mmとなっており、当該観測地よりも標高が高いことから若干多いと推測される。  地 質：火成岩  土 壌：適潤性黒色土（偏乾亜型）

【検討事項】

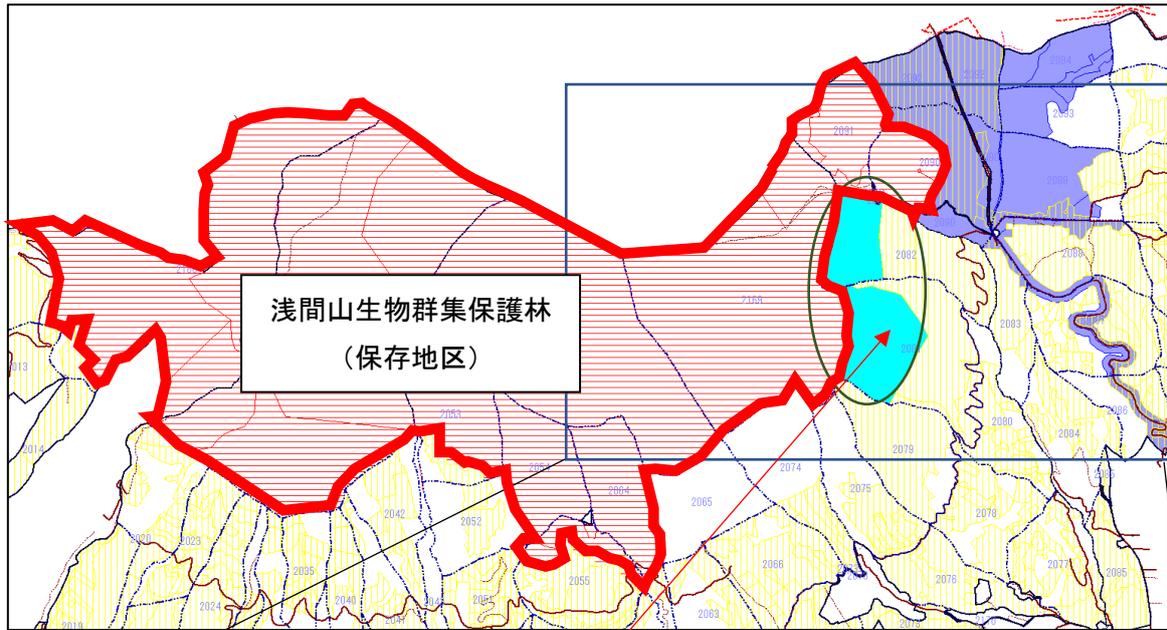
本年度の森林計画策定において、本保護林の保存地区に隣接する以下の天然生林について、保全利用地区として追加設定することを検討中。

本保護林は保存地区のみを設定しているが、その東側は、群馬県と長野県を結ぶ観光道路（鬼押ハイウェイ）に接続する国道からも近い位置にあることから、新たに保全利用地区を設定することにより、既存の保存地区に外部からの影響が直接及ばないよう緩衝帯としての効果が見込まれる。

追加設定箇所 ※森林調査簿の情報に基づく

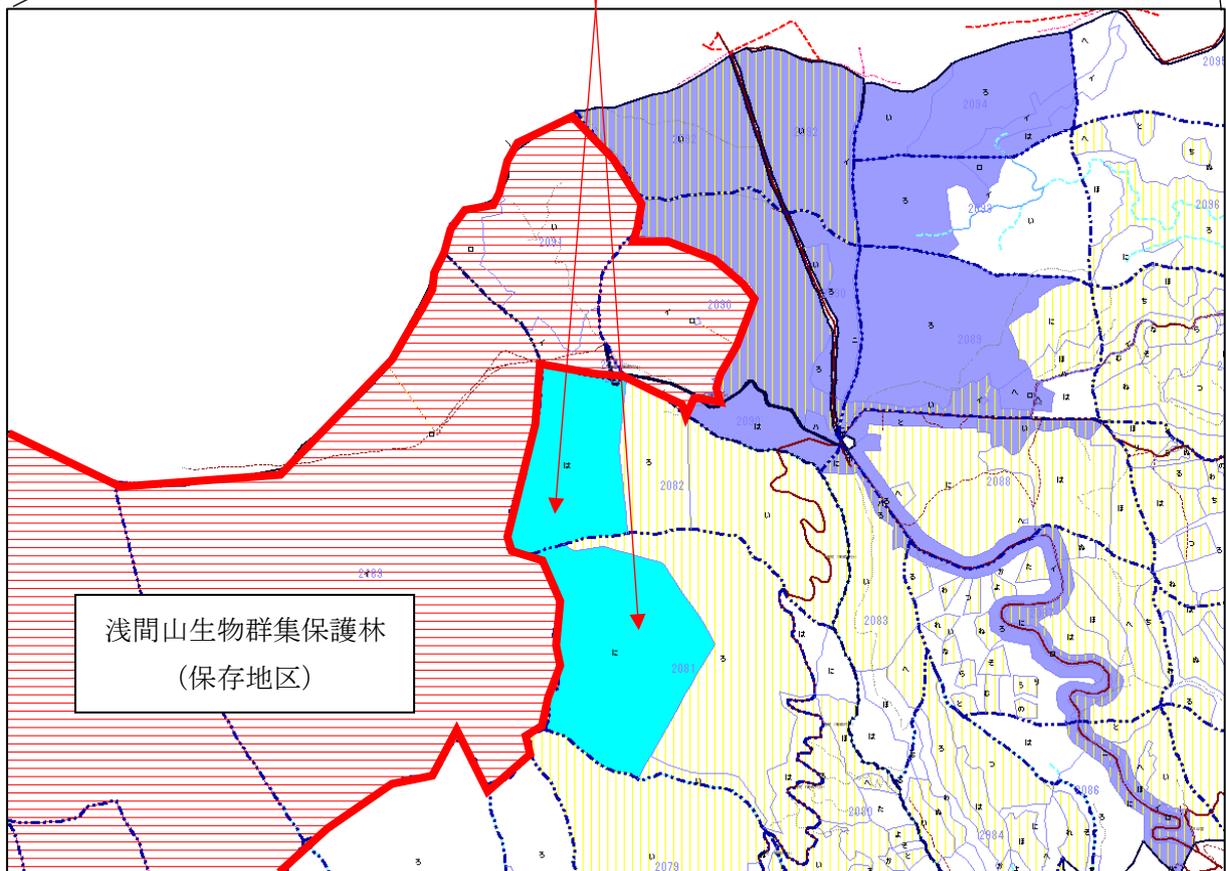
- ・ 2082 は林小班 面積：37.08ha 林種：天然生林 林相：針広混交林  
樹種割合：カラマツ 60%、その他広葉樹 40%
- ・ 2081 に林小班 面積：60.30ha 林種：天然生林 林相：針葉樹林  
樹種割合：カラマツ 30%、アカマツ 50%、その他広葉樹 20%

区域図



拡大図

今回、保全利用地区として追加設定を検討している林小班



凡 例	
赤枠・赤ストライプ	既保護林（保存地区）
水色	追加検討箇所（保存利用地区）
紫	レクリエーションの森（風景林）
黄ストライプ	人工林

現地検討箇所②（浅間山霧上の松希少個体群保護林）

保護林の概要（保護林管理方針書より抜粋）

名 称	浅間山霧上の松希少個体群保護林
位 置	浅間山国有林 2030 はつ、2032 ろは林小班
面 積	10.20 ha
設定目的	浅間山（2,493m）山麓にある「霧上の松」と呼ばれる形質・成長ともに優良なアカマツ天然林の個体群の保護・管理を図ることを目的とする。
地況・林況	<p>浅間山の南麓に位置する南西向きの緩斜面である。1783年（天明3年）の浅間山噴火以降に成立したアカマツを主体とし、広葉樹の混交する林齢約140年から180年の天然林である。</p> <p>標 高：1,000～1,080m</p> <p>気 候：中央高地気候区に属し、典型的な内陸性高冷地帯で寒暖の差が大きい。 夏季は気温の格差が大きく、冬季は寒さが厳しい。</p> <p>降水量：御代田町観測地で年平均950mmとなっており、当該観測地よりも標高が高いことから若干多いと推測される。</p> <p>地 質：輝石安山岩</p> <p>土 壌：適潤性黒色土（偏乾亜型）</p>

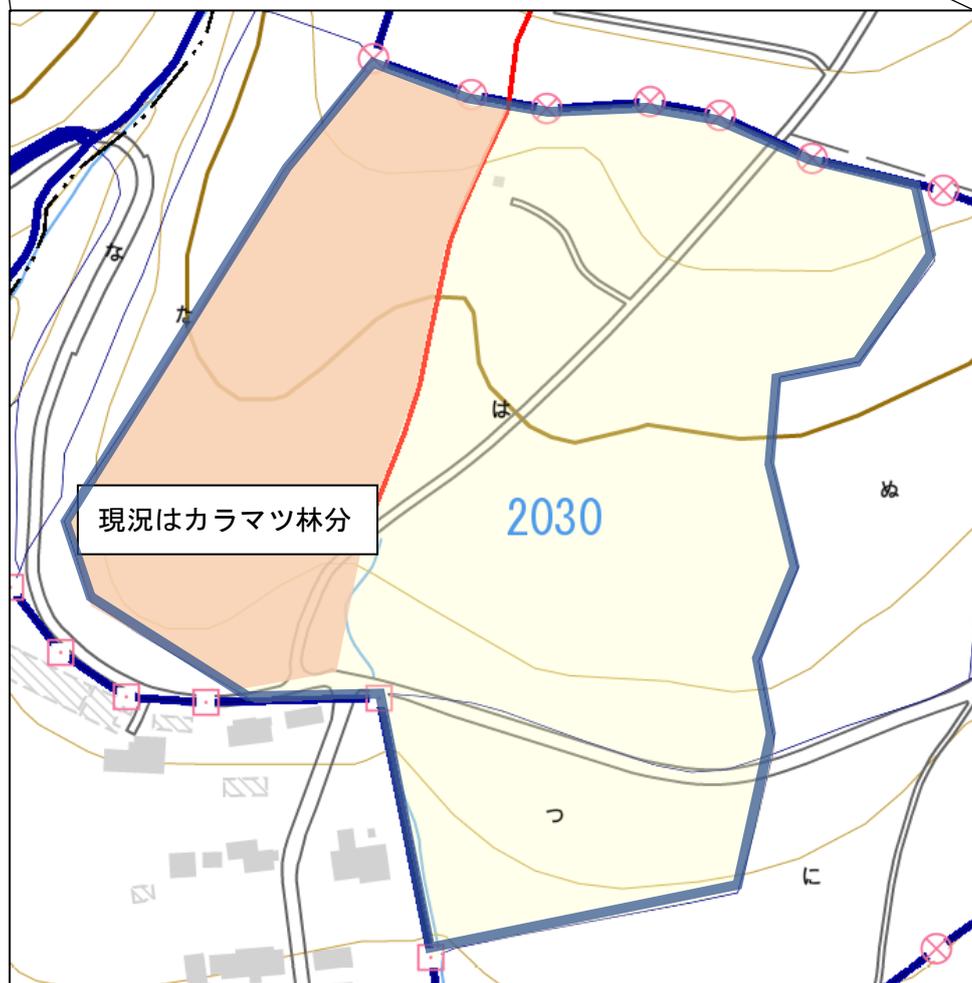
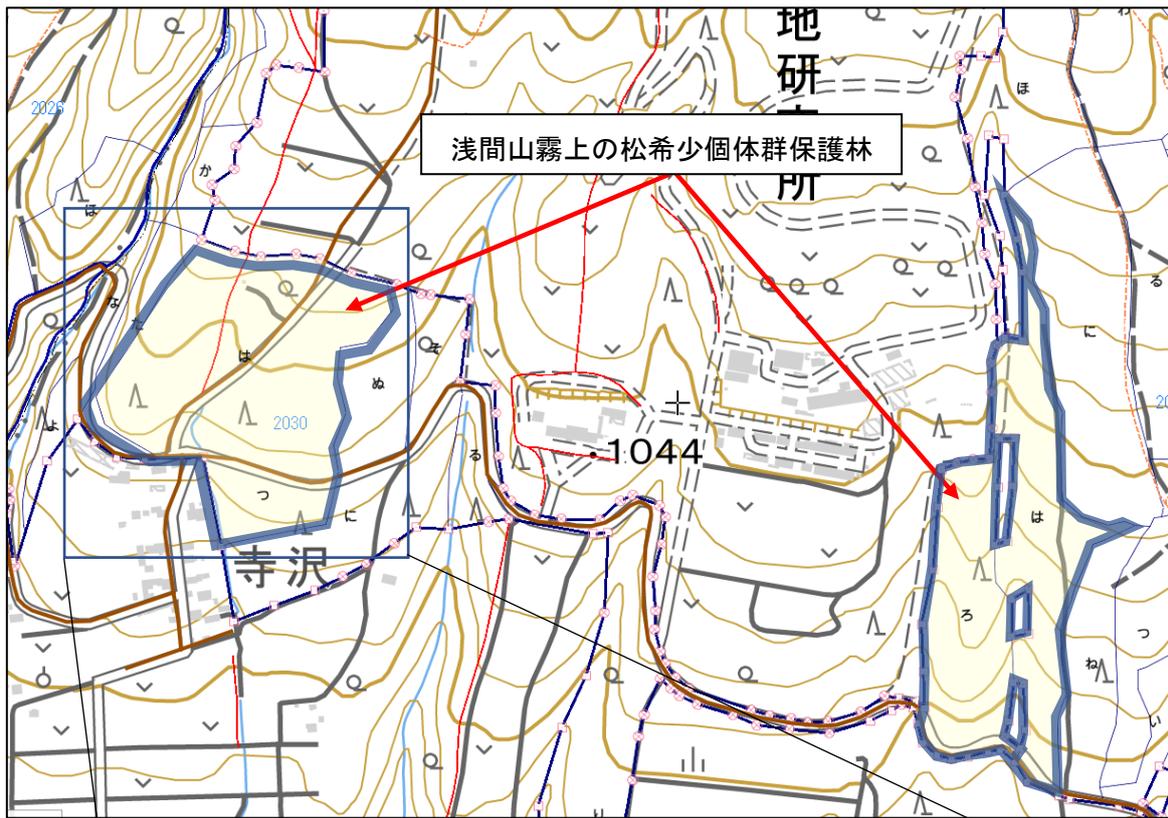
【検討事項】

本保護林は、平成29年4月に2030は・つ林小班（計5.45ha）を新たに追加したところであるが、令和4年の現地調査の際に2030は林小班内にカラマツ林分（約1.6ha：アカマツをほぼ含まない）を含んでいることが発覚したところ。

本保護林の保護対象は、アカマツ林分であることから、該当区域を本保護林から除外することとしたい。

なお、ツルが繁茂していることから、その除去を今年度内に予定しています。

区域図



上空からの写真



Google マップより引用

現地検討箇所③（浅間山カラマツ希少個体群保護林）

保護林の概要（保護林管理方針書より抜粋）

名 称	浅間山カラマツ希少個体群保護林
位 置	浅間山国有林 2036 れ林小班
面 積	1.49 ha
設定目的	嘉永3年（1850年）植栽と伝えられる我が国最古のカラマツ人工林であり、学術的に貴重であるため、当該個体群の保護・管理を図ることを目的とする。
地況・林況	<p>浅間山（2,493m）の南麓に位置する緩やかな平衡斜面である。</p> <p>標 高：1,035m</p> <p>気 候：中央高地気候区に属し、典型的な内陸性高冷地帯で寒暖の差が大きい。 夏季は気温の格差が大きく、冬季は寒さが厳しい。</p> <p>降水量：御代田町観測地で年平均950mmとなっており、当該観測地よりも標高が高いことから若干多いと推測される。</p> <p>基 岩：輝石安山岩</p> <p>土 壌：適潤性黒色土（偏乾亜型）</p>

【検討事項】

本保護林については、特段の検討事項はないが、林齢が170年を超え、枯死木等も散見される状況となっていることから、引き続き保護林として管理していくにあたり、ご意見等を頂きたい。

区域図

